

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第15回 HWC標準作業会 議事録

1. 日 時 : 平成24年10月11日(木) 14:00~16:00
2. 場 所 : 日本原子力発電(株) 本店 2階 第4会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(委員) 内田、高木、和田、小野、寺門、久宗
(常時参加者) 北島、山本、上山
4. 配布資料 :
 - 15-1 第14回 HWC標準作業会 議事録(案)
 - 15-2 沸騰水型原子炉一次冷却系構造材料の腐食電位の解析実施方法
 - 15-3 SCC発生・き裂進展速度評価の現状
5. 議事概要 :

HWC標準として規定する事項を確認できたので、今後作成するHWC標準原案の目次案(構成案)を検討した。

 - (1) 出席者の確認
出席者の確認を行い、委員8名中6名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
 - (2) 前回議事録確認
久宗幹事より、資料15-1「第14回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり原案どおり承認された。
 - (3) 目次案(構成案)の検討
和田委員より資料15-1、内田主査より資料15-2の説明があり、HWC標準案の構成について検討した。
 - ① HWC標準の内容は化学分析標準の内容と大きく異なるため、作業会メンバーのHWC標準のイメージを合わせる必要がある。
 - a) 標準原案作成時、最初に一本の原案として作成し、その後で付属書と解説書に分類することとした。
 - b) その際、最低限でも本文のみで解析方法が理解できる構成とする。
 - ② ラジオリシスモデルとECPモデルをメーカーで分類しているが、一般論として記載することとした。
 - a) ラジオリシス解析/ECP解析の基本的な考え方を記載する。
 - b) 解析に用いるg値や反応速度定数は一般的な事項を記載する。
 - c) 解析に用いる炉心パラメータは各プラントで異なるため、一般化して代表値を記載する。
 - ③ タイトルにHWCによる環境緩和効果(ラジオリシス/ECP)の解析であることがイメージできるようにする。
 - ④ 「I. まえがき」にHWCによる環境緩和の考え方や解析に係る標準の必要性について記載する。
 - ⑤ 「6. 実施手順」ではフィロソフィーとともに解析方法を記載し、HWCの方法やモニタリングについては、別途作成する「BWR水化学管理指針」に記載する。
 - ⑥ 「4. 一般事項」、「7. 報告書作成~10. 不適合の管理」について

は削除するが、標準原案作成時必要に応じて復活させる。

- ⑦ ECP解析時に用いるアノード分極曲線はSUS304のデータを使用していることを明記する。

(4) 今後の進め方

HWC標準の本文を下記の分担で作成し、11月22日(木)までに久宗幹事に送付することとした。

また、久宗氏から各委員に送付し、次回作業会までにメールベースで内容をレビューすることとした。

- ① 「まえがき」 : 高木副主査
- ② 「6.1 解析計画。プロセスの明確化」 : 高木副主査
- ③ 「ラジオリシス解析」 : 山本常時参加者
- ④ 「腐食電位解析」 : 和田委員
- ⑤ 「6.3 解析の検証」 : 内田主査
- ⑥ 「6.4 解析の妥当性確認」 : 内田主査

11月6日(火)PMに開催を予定している水化学管理分科会において、HWC標準作業会で検討している「目的」と「考え方」を説明する。(資料作成:日本原電)

(5) その他

次回(第16回HWC標準作業会)は、12月11日(火)14:00~17:00に原電本店2階の第4会議室で開催する。

以上